

Vol. 30 R7.10.20

第37回「川の絵画コンクール」表彰式を開催



10月20日に37回目となる「川の絵画コンクール」の表彰式が行われました。『河川愛護月間（7月）』に併せて行われる、富山県内に住む小学生を対象としたコンクールです。夏休み中の思い出に残った川遊びや風景を描くことで川へ興味を持っていただくとともに、絵を通して多くの方々に郷土の川の将来について考えていただくため、平成元年から現在まで「川の絵画コンクール」を実施しています。

当事務所が担当する常願寺川部門からは、立山砂防事務所長賞として2名の方が表彰されました。

第37回 川の絵画コンクール表彰式

開催日：令和7年10月20日（月）

場所：富山河川国道事務所 3階会議室

金賞

立山砂防事務所長賞の作品 テーマ「ふるさと富山の川」

【低学年の部】



「ぼくのすきな立山線と川」

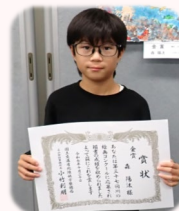


富山大学教育学部
附属小学校 2年
小原 晴大さん

【高学年の部】



「川の中をのぞいたら」



上市町立
相ノ木小学校 5年
森 陽汰さん

<講評>

常願寺川橋梁を黄色と緑色のかぼちゃ電車が走り抜けています。立山を背景にした、県民にはおなじみの、富山が誇る美しい景色を切り取って描いた作品です。手前の川の勢いある水流は長めのストロークで、石がゴロゴロ転がっている河川敷は短いタッチで、といったふうに筆遣いを工夫して、ものの特徴が良く表れるように描いています。薄雲がかかる冠雪の立山の山並みにかぼちゃ電車の鮮やかな黄色が映える、明るい雰囲気のある作品です。

<講評>

ゴーグルをつけて川の中をのぞいたら、ヤマメやカニなど、たくさんの生きものが行き交う水中の世界が広がっていた！という驚きとワクワク感が画面から伝わってくる作品です。水面に半ばまで浸けた顔、水中をじっと見つめる大きな目。川底に手をついて、身を乗り出すように中世界を観察する構図は大胆で力強く、見る人をひきつける魅力があります。ちぎった新聞紙をコラージュして川底の石や岩を表現している点も、工夫が凝らされています。また、カニやサリガニの赤、水の青、きらめく魚の体表の黄色や緑、Tシャツの袖の紫、といった色彩表現の豊かさも見事です。

応募数
138校
作品数
1,833点

皆さん受賞おめでとうございます！



【低学年の部】



【高学年の部】



常願寺川部門で受賞された作品を展示します！

各5河川の【金賞】受賞作品、【審査員特別賞】受賞作品、

常願寺川部門の【銀賞、銅賞】受賞作品は、

立山カルデラ砂防博物館（SABO展示室側の渡廊下）に展示します。

是非、ご家族と一緒に受賞された作品を見に来て下さい。

展示期間：10月24日（金）～26日（日）の3日間
開館時間：9時30分から16時30分まで